

---

# バースデイ・ダウン

グランシェス(エドワード)

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バースデー・ダウン

### 【Nコード】

N1844T

### 【作者名】

グランシエス（エドワード）

### 【あらすじ】

悠一の誕生日前日

悠一は元気が無く私心配・・・

(前書き)

これを読む前に俺の彼女はツンデレお嬢シリーズを読む事をオススメします

追記設定分

古藤 悠一

誕生日前にバイトを始め五月病に陥る

誕生日は作者と同じ5月18日

西金 ミリア

かなりのツンデレなのか口が勝手に罵声じみた事になる

それでも、心配したりと普通の女の子っぽい所もある

明日は悠一の誕生日  
だけど、いつもみたいな元気がない・・・

私にとってはそれが心配で・・・  
でも、私は素直になれない  
だって・・・恥ずかしいし・・・

20XX年5月17日

いつもならそろそろ悠一が来る時間・・・  
だけど、今日はまだ来ない・・・

ミリア「遅いわね・・・」  
玄関で悠一を待つてはいるけど一時間経っても来ない  
心配だけど私が迎えに行くのはイヤだ

私が入ろうとした時、無表情の悠一がやってきた  
ミリア「遅い・・・じゃない・・・？」

よく見ると無表情と言つよりは目が虚ろで暗くて怖かった  
ミリア「悠・・・一？」  
呼びかけると顔を上げて私を見る悠一

悠一「ミリア・・・」  
私を呼ぶ声もかすれて明らかにいつもの悠一とは違った  
ミリア「悠一・・・風邪？」  
尋ねると悠一は重々しく首を横に振った

ミリア「・・・そんなんじゃないから今日は帰っていいわよ」  
私は悠一を追い返すようにして帰した

ミリア「悠一、大丈夫かしら・・・」  
心配はしてても私が何かするのはやっぱり恥ずかしい・・・

悠一を帰してから私は家の中をウロウロしていた  
それに気づいたのはメイドが心配して声をかけてきた時  
ミリア「ねえ・・・買い物をお願いしてもいいかしら？」  
私は買う物をメモに書いて渡した  
ミリア「それと・・・悠一の様子見てきてくれる？」  
メイドは返事をして買い物に出かけた

それから少しの間

私は気を紛らわせる為に悠一の誕生日に何をあげようか考えていた  
ミリア「・・・ケーキ、うーん・・・ダメね」  
悠一の誕生日の事を考える度に悠一の事が心配で集中出来なかった  
メイドが戻ってきたのか勝手口の開く音がした  
時計を見ると30分も考えていたらしい  
ミリア「あら、もうこんな時間？」  
そう呟きながら私はキッチンに向かった

ミリア「頼んだ物は・・・全部あるわね」  
私はメイドから渡された買い物袋から特製ドリンクの材料を取り出して作り始める

ミリア「悠一・・・大丈夫そう？」  
作りながらメイドに聞くと悠一は5月に入ってからバイトを始めた事がわかった  
「ただ、仕事になれずに体調を崩したらしい  
ミリア「五月病かしら・・・それに、なんでバイトなんてしてるのかしら？」

独り言のように言いながら出来た特製ドリンクを水筒に入れる  
水筒に入れた特製ドリンクをメイドに渡して悠一に届けさせた

夕方

ミリア「はぁ・・・明日の事もあるし、元気でいて欲しいわね・・・」  
私はケーキを作りながら溜め息については小言で悠一の事を呟いていた

20XX年5月18日

今日は悠一の誕生日

ケーキも作ってあるけど・・・昨日の悠一の暗い顔が頭を過ぎり心配だった

ミリア「・・・そろそろ、呼び出そうかしら？」

悩んだあげく電話で悠一を呼び出した

しばらくしてから悠一が来た

悠一「・・・おう・・・」

昨日よりは元気みたいだけどまだ少し暗い顔のままだった

ミリア「暗いわねえ。今日は悠一の誕生日で主役なのに、そんなに暗くてどうするの？」

私の口は勝手に悠一に罵声を浴びせた

いつもなら口喧嘩になるけど今日は悠一の反応が鈍かった

ミリア「そんな状態になるならバイト辞めたら？」

私の口は勝手に動いて悠一を傷つけそうな事ばかり言う

悠一「・・・辞める事は・・・出来ない・・・」

悠一の声は小さく聞こえなかった

ミリア「はつきり言いなさい、聞こえないわよ？」

叱り付けるように私の口は問いたです

悠一「辞める事は出来ない・・・ミリアと・・・どこか行きたいから・・・」

悠一から私と何処かに行きたいって言われたのは初めてだった

ミリア「もう・・・それなら・・・心配させないでよ・・・」

私は泣き崩れるように悠一に抱きついた

それから私と悠一は二人だけで誕生日を祝った  
いつもと同じ位、元気になった悠一と・・・

(後書き)

今回は公開が遅れて申し訳ないです  
とりあえず公開日に私情で出かける事になり  
書く事が出来ずに公開が二日ずれてしまいました

今回ですが

俺の彼女はツンデレお嬢シリーズで

悠一の視点では無くミリア視点というのをお楽しみください

また、密かに悠一の誕生日が決定したりw

悠一の誕生日は作者と同じ5月18日なので覚えていたら祝ってや  
ってくださいw

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1844t/>

---

バースデイ・ダウン

2011年10月8日12時25分発行